

ひとつの夢と 100 の夢

ひとつの夢がこわれたとき、皆さんはどうされるでしょうか。私はがっかりします。そして意気消沈してしまいます。ひどいときには、生きる気力もなくなりそうです。なにもかも投げ出してしまいましたくなります。

そんなとき、私はある知人からとても素敵な言葉をもらいました。彼は私に言いました。「君が悲しがるのは、たったひとつしか夢を持たないからだ。僕なんか、夢がこわれたからといって、君みたいに嘆いたりしない。なぜなら、僕には100の夢があるからだ。たったひとつの夢がこわれたからって、なんていうことはない。まだまだかなえない夢がたくさんあるんだ。」

たしかにそのとおりでした。私は、たったひとつの夢にこだわっていました。だから、その夢がこわれたとき、もう私を支えるものはなにもないように思えたのです。

そのときから、私は、100の夢を持つと決めました。そして、100の夢を書き出してみようと思いました。しかし、なかなか書き出せませんでした。100の夢を持つことは簡単ではありませんでした。しかし、100の夢を持つと決めるときから、私は少し強くなりました。あまりへこたれなくなりました。100の夢を持つことは、私に100の希望と100の可能性があることだと考えるようになりました。一つの窓が閉まれば、必ずどこか別の窓が開いているという言葉聞いたことがありました。それと同じように、ひとつの夢がこわれても、別の夢を実現すればいいのだと思いました。

私は、この街を100の夢で満たしたいと思います。しかし、私だけで100の夢を描くことはできません。だから、皆さんと一緒に、この街のために100の夢を書き出してみようと思います。それを一つひとつ実現していくことが、この街の希望であり、この街の可能性であり、この街の未来だと思っております。

この街に眠っている愛を集めれば、どんなに心の優しい街になるだろう
この街に潜んでいる知恵を集めれば、どんなに思慮深い街になるだろう
この街に埋もれた思いやりを集めれば、どんなに温かな街になるだろう
この街に生まれた命を集めれば、どんなに輝きに満ちた街になるだろう
この街に躍動した力を集めれば、どんなに若さに溢れる街になるだろう
この街に暮らした時間を集めれば、どんなに記憶に残る街になるだろう
この街にあふれた思い出を集めれば、どんなに誇りある街になるだろう
この街に住む人の声を集めれば、どんなに響きに満ちた街になるだろう
この街に刻まれた足あとを集めれば、どんなに出会いの街になるだろう
この街に落とされた汗を集めれば、どんなに深い感謝の街になるだろう
この街に流された涙を集めれば、どんなに真実を求める街になるだろう

そして、この街に置き忘れた夢を集めれば、どんなに希望の街になるだろう
この街に…

さあ、みんなで夢を集めましょう。

直方市長 壬生 隆明